

部落行事によせて



カット写真はにぎあう杓子ケ峯の行楽風景

はぐりじよみ

鳥栖の戦国武将史⑥
今川九州探題と村人
木原武雄

今川九州探題と村人

木原武雄

短 歌
耶馬溪遊行
木下征一
本通町
西
水へいの山にさしのる山をなきし音の洞門
紅葉には間のある歌は人を賣へる耶馬溪はまことに大手の絶景
一日の短かなる遙る耶馬溪の耶馬溪を見しに想む
（第者は西川ララギ同人）
深黙ぐる音がゆく音がゆくはなづかの旅愁はむじ
学校のがれい道じんねは
の所まできた時はくわう
しゃがる三年生のひらうせん
人のことだが、前に立つて
六年生、五年生、人でね
やめのうじるのゆゑなれば
ばやんがしひれらで」と
した。やめもんとだんはし
鳥栖小学校四年 山内幸行
こわいなあ

九時山の山から出でて、
風は、打ち寄せるといつら
うに、飛び立る雲煙(くもじん)を
飛翔(ひしょう)する。また、大空
へ昇(あが)んで行く。
には、粒(こず)の大きいか
雪片(ゆきび)が舞(まい)ふ。風
も、雪片(ゆきび)のやうな、
やがて、山頂(さんてう)の雪片(ゆきび)
に吹(ふ)れて、よどむけられ、
西に向(むか)へて、走(はし)る武者(ぶしゃ)
があつた。その後(あと)を走(はし)る武者(ぶしゃ)
たちは、つづいて走(はし)る。え
もんかん。みんな馬(馬鹿)(ばか)

舞よらる。新しもの、採集遊覧をやめ、山の奥へ、山の中野原へ、「移したのである。その後、彼は秋の秋と呼ぶて肥前、筑紫、肥後の郊外に沈没するかの足尾をめぐらして、元年(三七二)春櫻の木、奥州の有智山(有智山)を以て引いた。さて文安二年正月開刀が最初の発点たる高麗山(高麗山)を以て、九州南進の意を示す。九州南進の意を示す。この頃は明暦の遺臣が京都へ歸り、朝鮮の軍備を整へ、朝鮮へ歸入し、南朝の皇胤を立てる。おして天主とは不正統のものである。そこで天主とは不正統のものである。

